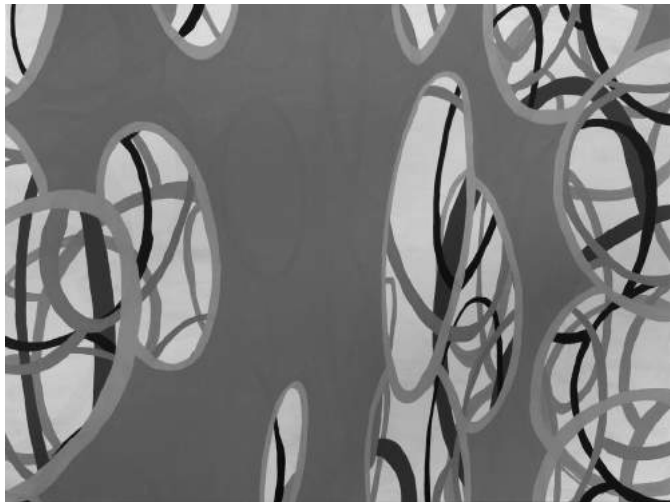


湯川雅紀のワークショップと展覧会

田辺市立美術館では、熊野古道なかへち美術館を会場にして講師のアーティストと一緒に作品をつくるワークショップシリーズ「くまびで作ろう！」を開始することを、2019(平成31)年度に計画しました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で止む無く中止となり、その後も何度か日程を調整し、昨年度末にも改めて開催を予定しましたが、それらもすべて断念せざるを得ませんでした。

昨年度からワークショップ開催の後に、講師に招いたアーティストの作品を紹介することも計画に加え、展覧会の準備もワークショップの用意と同時に進めてきました。残念ながらワークショップは実施できませんでしたが、「くまびで作ろう！」第一回目の講師として依頼した、絵画における空間の問題をテーマに独自の表現を探索し続けている、湯川雅紀(1966～)の近年の制作を紹介する展覧会は、この4月から田辺市立美術館で開催できる見通しとなりました。



湯川雅紀《流星群4》 2015(平成27)年

個人蔵

湯川は和歌山県海南市に生まれ、1989(平成元)年に和歌山大学教育学部を卒業し、1991(平成3)年に大阪教育大学大学院美術教育研究科を修了しました。その後1996(平成8)年までドイツの国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに学び、マイスターシューラー(最高学位)を取得、ドイツを拠点に制作を続けながら、日本でも1998年の「VOCA展'98」でVOCA賞を受賞しました。2010(平成22)年に帰国した後も、意欲的に制作と発表を続けるとともに、教育にも携わり、現在は関西福祉科学大学教育学部の教授を務めています。

ワークショップは、様々な道具を使って大きな絵を描くことをテーマに計画していました。続く展覧会では、湯川がドイツから帰国して以降の約10年間の制作に焦点をあてて、作品を展観します。多様な円形で層状の画面を構成する湯川の絵画は、作品上に緩やかで複雑な空間を生み出し、時には画面の外へと鑑賞者を促します。本展覧会の開催にあわせて制作される最新作も展示の予定です。皆様のご観覧をお待ちしています。

(学芸員 知野 季里穂)

INFORMATION

特別展

湯川雅紀 2011—2022

会場／田辺市立美術館

観覧料／600円(480円)

※学生及び18歳未満の方は無料

会期／2022年4月16日(土)～6月26日(日)

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日・5月6日(金)

文人画や南画の山水風景

日本には鎌倉時代の中頃、禅宗の流入とともに多くの中国絵画が流入し、特に水墨山水と呼ばれる宋元時代の絵画は禅宗寺院を中心にもてはやされることとなりました。その後、室町時代に盛んとなった水墨画による山水表現は、それまでの伝統的な日本絵画の景観表現と相まって独自の様式を生み出します。

江戸時代に入ると、鎖国のため対外交易の多くは長崎の出島に集中しており、オランダや李氏朝鮮とも交易は行われていましたが、流入した文物の大半は中国文化を紹介するものでした。中でも明清の南宗画(南画)は、職業画家が描いた写実的な山水風景ではなく、絵を描くことを専門にしない士大夫と呼ばれる「文人」が描いた、「写意」を重んじた心象風景としての山水図でした。

この描き方は中国舶来の文化に憧れた日本の知識人たちの多くを虜にし、やがてこの「写意」の表現に、実際の景色(実景)を取材した成果を取り入れる描き方が流行し始めます。この描法は「真景図」と呼ばれ、先人の模倣だけでは到達することのできない真の山水図を描く方法として後世の文人画家たちにも受け継がれていきました。

開国後、明治維新を経て様々な外国文化が流入し、文人画や南画における風景表現も西洋絵画の影響を大きく受けることとなりましたが、近世以来の伝統を継承して後の世代に大きな影響を与えた画家や、大正に入ると新しい南画を発表する画家なども現れ、これまでに培われた文人の精神を引き継ぎながらも新しい時代の風景表現を試みる画家たちが多く活躍しました。

熊野古道なかへち美術館で開催する「胸中の山水—文人画と南画—」は、江戸時代に隆盛した文人画と明治以降の近代南画に描かれた山水風景の表現の違いに注目する展覧会です。

(主任 辰巳 充)



池大雅《楓林停車図》

田辺市立美術館寄託

INFORMATION

館蔵品展

胸中の山水 — 文人画と南画 —

会場／熊野古道なかへち美術館

観覧料／260円(200円)

※学生及び18歳未満の方は無料

会期／2022年4月16日(土)～6月26日(日)

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日・5月6日(金)

新収蔵作品について

昨年度は、4点の作品を購入し、24点の作品のご寄贈をいただきました。

購入した作品は、織作家、中野恵美子(1941～)の《香彩》(1984年／215×150×d.40cm／立体)と《連なる》(2007年／210×300cm／タビスリー ※右下の図版)で、2点とも、昨年に開催した特別展「現代の織V 中野恵美子」に出品していただいた作品です。同展に出品していただいた他の4点の作品のご寄贈もあり(下の表No.1～4)、中野の創作活動の初期から近年までの代表的な作品を当館のコレクションに加えることができました。

近代の洋画家、鍋井克之(1888～1969)の作品、《夢殿(法隆寺)》(1930年／60.0×72.7cm／額装 ※表紙に作品紹介を掲載)も購入しました。この作品は、2001(平成13)年に特別展「鍋井克之展」を開催した際に出品していただいたことのある作品で、第17回二科展で発表された、壮年期の充実した一点です。この他にも、鍋井に師事していた画家のご遺族から、2点の作品のご寄贈をいただいています(下の表No.5～6)。

当館が開館当初から作品の収集と展覧会の開催を継続して行い、その芸術の紹介に努めてきた、当市出身の日本画家、稗田一穂(1920～2021)が昨年、満100歳で亡くなりました。その遺作を新たに18点収蔵しています。稗田が晩年に龍に取り組んで描いた作品、《蛟龍》(1999年／80.0×100.0cm／額装)を購入し、ご遺族から16点の作品をご恵贈いただきました(下の表No.9～24)。また稗田と親交のあった市内の方のご遺族からも、ご所蔵されていた作品1点をご恵贈いただいています(下の表No.8)。これらの作品を含めて、その画業を回顧する「稗田一穂展」を、本年度、和歌山県立近代美術館と共同で開催する予定です。

稗田と同じように開館当初から作品を収集してきた、当市出身の近代の洋画家、原勝四郎(1886～1964)の作品も1点収蔵することができます(下の表No.7)。この作品は、1997(平成9)年に開催

した特別展「原勝四郎展」に出品していただいた後、所在が不明になっていたものです。昨年、市内の方からご所蔵の旨とご寄贈のお申し出をいただいて、当館のコレクションに加わりました。

昨年度は例年に比べてすいぶん多くの作品を収蔵することができました。近年コレクションの厚みを増している織の造形作品が6点、開館当初から収集を継続している作家の作品が22点で、いずれもこれまでの当館の調査、研究、展覧会活動と密接に結びついたものです。このような作品の収蔵ができるのも、当館の活動にご理解をいただいている方々のご支援があるからに他なりません。ここに改めて深い感謝の念を表します。

このコレクションの拡充を、今後の活動の進展につなげてゆきたく思います。

(学芸員 三谷 涉)



中野恵美子《連なる》 2007(平成19)年

昨年度寄贈作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質/形状	寸法 (cm)
1	中野恵美子	華	1982(昭和57)年	ウール/立体	260×180×d.25
2	中野恵美子	Inside and Outside (内と外)	1990(平成2)年	サイザル・綿/タビスリー	160×300
3	中野恵美子	白い影	2015(平成27)年	和紙・絹/タビスリー	175×145
4	中野恵美子	Knot Letters (結び文字)	2017(平成29)年	綿・リネン/タビスリー	130×108
5	鍋井克之	伊豆海岸	1929(昭和4)年	板・油彩/額装	22.0×27.0
6	鍋井克之	多福多寿多男子之図	未詳	紙・顔彩・墨/軸装	35.8×49.2
7	原勝四郎	綱不知	1942(昭和17)年頃	板・油彩/額装	19.4×32.7
8	稗田一穂	熊野・千羽鳥	2005(平成17)年	紙・膠彩/三曲屏風	73.6×87.0
9	稗田一穂	秋の風景	1949(昭和24)年	紙・膠彩/額装	100.0×87.0
10	稗田一穂	鳥(小綬鶏)	1957(昭和32)年	紙・膠彩/額装	111.0×143.0
11	稗田一穂	棲	1958(昭和33)年	紙・膠彩/額装	120.0×171.0
12	稗田一穂	雪後	1965(昭和40)年	紙・膠彩/額装	64.0×80.0
13	稗田一穂	首夏	1977(昭和52)年	紙・膠彩/額装	81.0×116.0
14	稗田一穂	湖雪	1981(昭和56)年	紙・膠彩/額装	81.0×116.0
15	稗田一穂	海遊	2000(平成12)年	紙・膠彩/額装	64.0×90.0
16	稗田一穂	伝説三熊野那智	2003(平成15)年	紙・膠彩/額装	185.0×143.0
17	稗田一穂	耀る午後	2003(平成15)年	紙・膠彩/額装	100.0×77.0
18	稗田一穂	驟雨去る	2004(平成16)年	紙・膠彩/額装	91.0×70.0
19	稗田一穂	赫陽	2007(平成19)年	紙・膠彩/額装	155.0×125.0
20	稗田一穂	浚湖浅春	2009(平成21)年	紙・膠彩/額装	100.0×73.0
21	稗田一穂	サイレントな窓辺	2014(平成26)年	紙・膠彩/額装	91.0×70.0
22	稗田一穂	微風	2015(平成27)年	紙・膠彩/額装	146.0×112.0
23	稗田一穂	春おぼろ	2016(平成28)年	紙・膠彩/額装	73.0×91.0
24	稗田一穂	晩夏	2017(平成29)年	紙・膠彩/額装	90.0×130.0

2022年度

■田辺市立美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①特別展 湯川雅紀 2011—2022 4/16(土)～6/26(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	②館蔵品展 織の表現 7/16(土)～9/4(日)	展示替のため休館	③小企画展 近代紀南の画家Ⅲ 福田静處 9/17(土)～11/6(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	④特別展 稗田一穂展 11/19(土)～ 2023.1/15(日)	展示替のため休館	⑤館蔵品展 雑賀清子 2/4(土)～3/26(日)

セキヤキ

展覧会スケジュール

■熊野古道なかへち美術館

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示替のため休館	①館蔵品展 胸中の山水 —文人画と南画— 4/16(土)～6/26(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	②特別展 現代の織Ⅵ 熊井恭子 7/16(土)～11/6(日)	展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館	展示替のため休館	③特別展 稗田一穂展 11/19(土)～ 2023.1/15(日)	展示替のため休館	■ワークショップと発表 くまびで作ろう!